

令和7年2月14日（金）

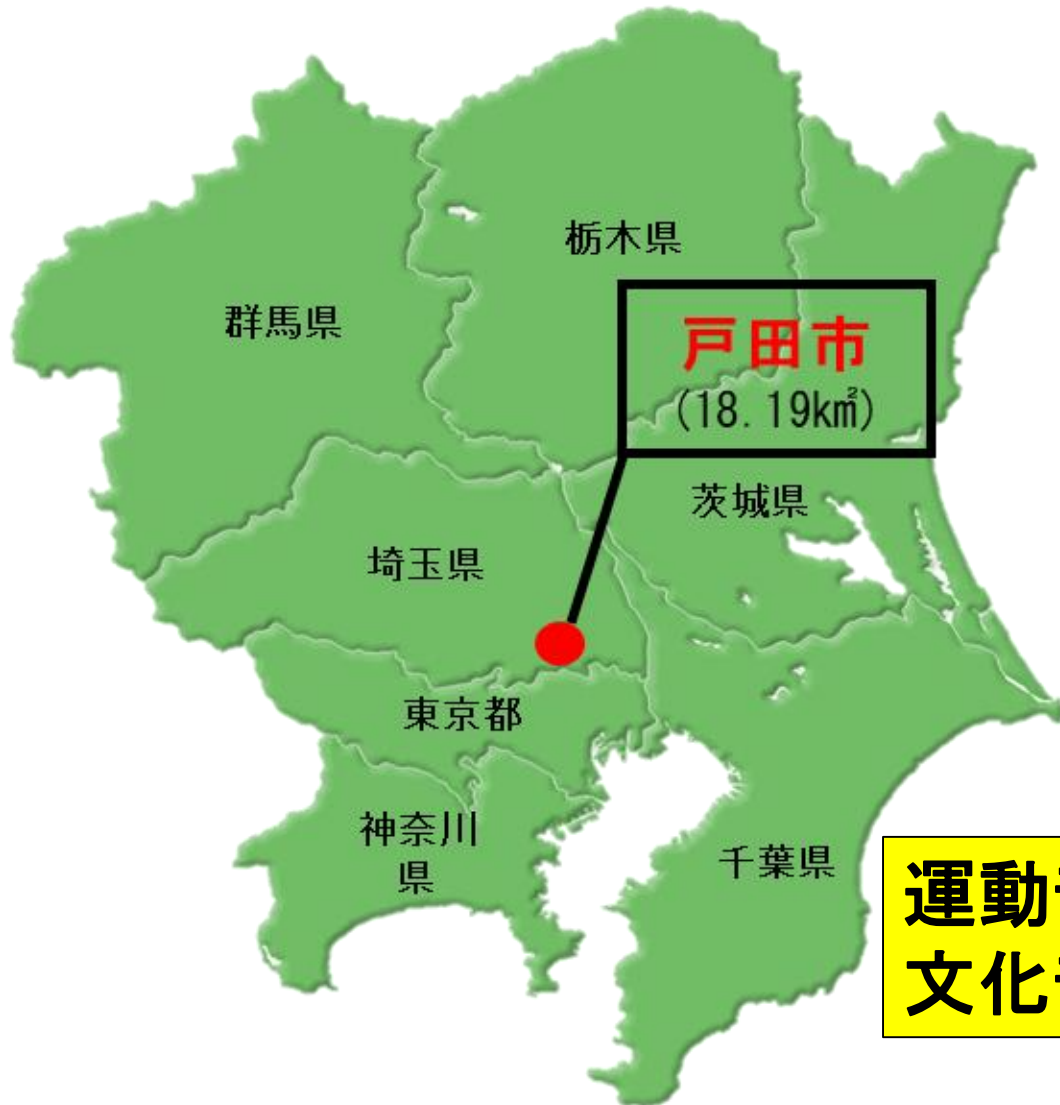
令和6年度地域部活動推進事業に係る実証事業報告会及び研修会

戸田市の部活動に関する取組について



戸田市教育委員会 教育政策室

戸田市の概要



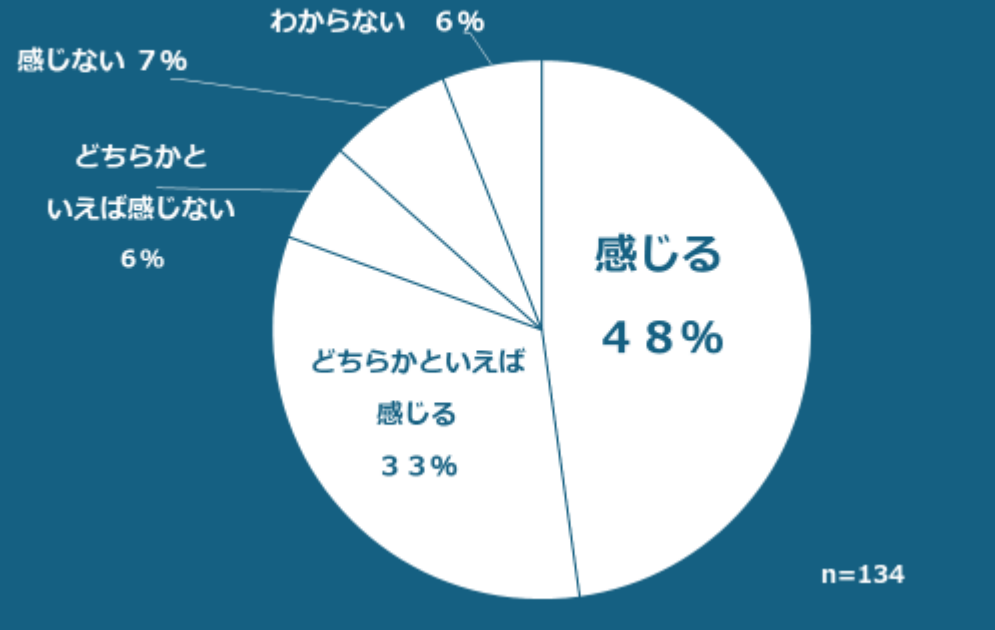
運動部 71部活動
文化部 30部活動

- 池袋15分、新宿20分
- 30歳代の子育て世帯増加
→平均年齢が42.3歳
→29年連続で県内一若い街
- 人口 約142,038人
(令和6年4月 現在)
- 小学校12校、中学校6校
児童生徒数 11,578人
教職員数 578人
(令和6年5月1日 現在)

戸田市の部活動の現状

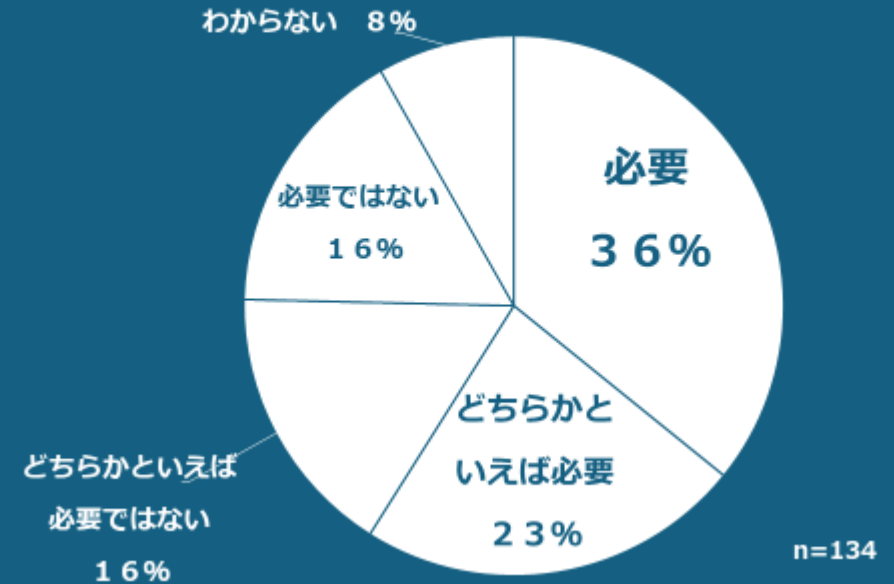
4

部活動に教育的意義を感じますか

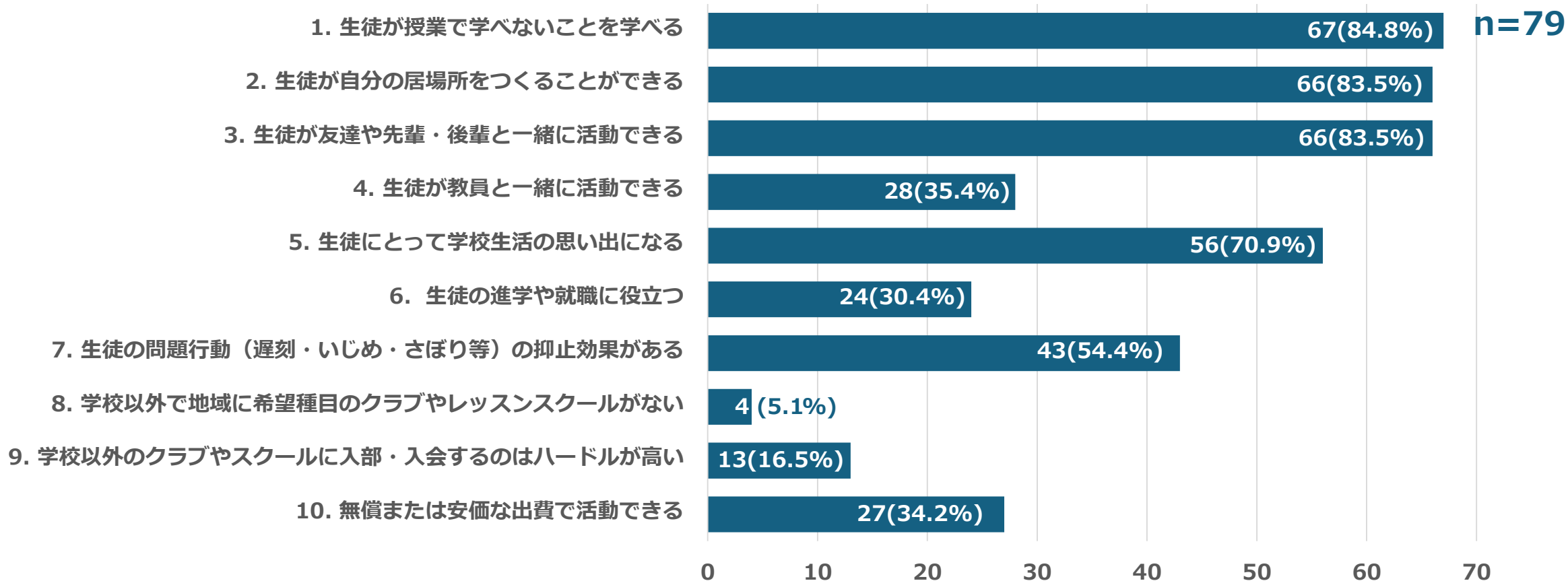


5

これからも学校生活に部活動は必要か



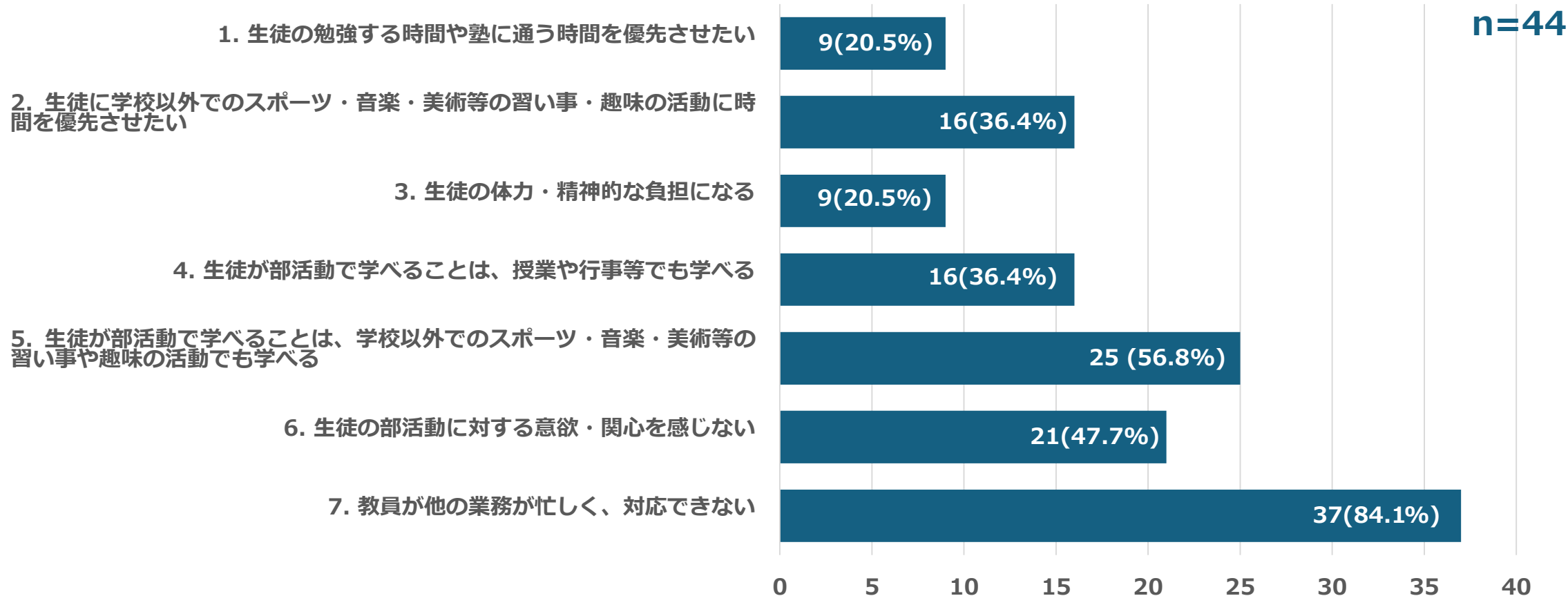
部活動が必要だと思う理由 (複数回答可)



<自由記述>

- ✓ 必要ではあると思う。しかし、各学校・各自治体によって取り組みや時間が違うといった面、また進路を決めていく上で部活動が影響して来たり、進学してきた先で待遇が違ったりといった差がある現状は公立の学校として改善すべき問題であると思う。
- ✓ 学習意欲が低い生徒に活躍できる場面を提供することで、学校に対する所属感が増え不登校の抑止力になれると考えられる。
- ✓ 教室や授業では見られない生徒の姿や様子を知ることができ、それを教師間で共有していくことで、生徒を多角的にみることができ、指導に役立つことが多い。また、基本的な生活習慣やマナー・礼儀などきちんと教え込むことで、学年や学校の集団としての規律や協調性を養うことができ、学年に還元できる。

部活動が必要だと思わない理由 (複数回答可)



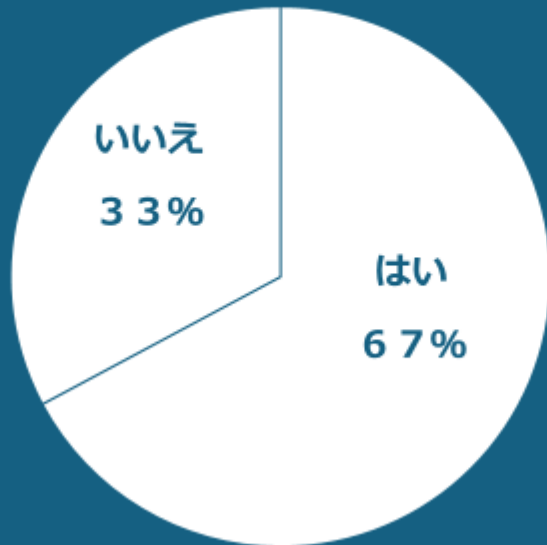
<自由記述>

- ✓ 時短・保護者対応等で部活動を円滑に行うことができる環境ではない
- ✓ 教師の仕事は授業であるため、人手不足、給料、残業の問題、生徒指導や保護者対応に見合う価値があるかどうか疑問である
- ✓ 昔と違い、大会前でも家族旅行や習い事などを優先し、意義を感じない。教えられない競技はきつい
- ✓ 休日は休みたい

戸田市の部活動の課題

2

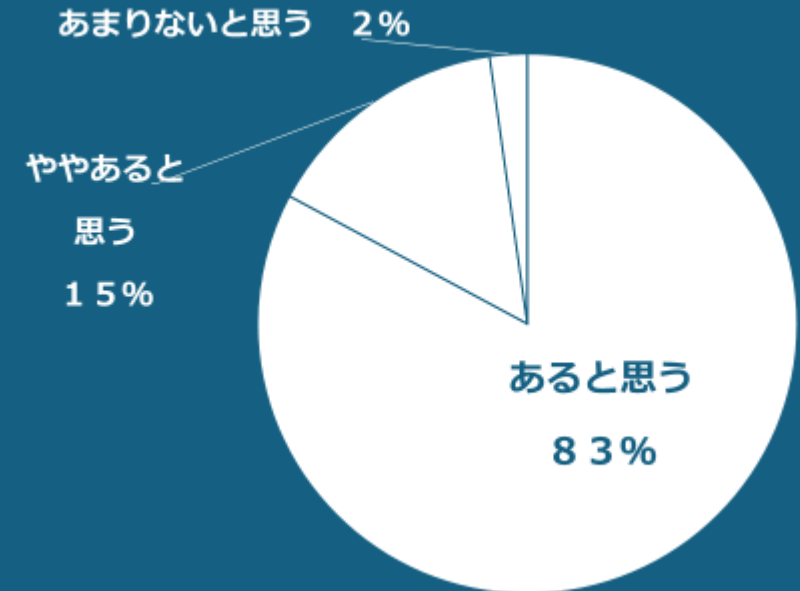
あなたが担当する部活動は、自身が希望する種目ですか



n=128

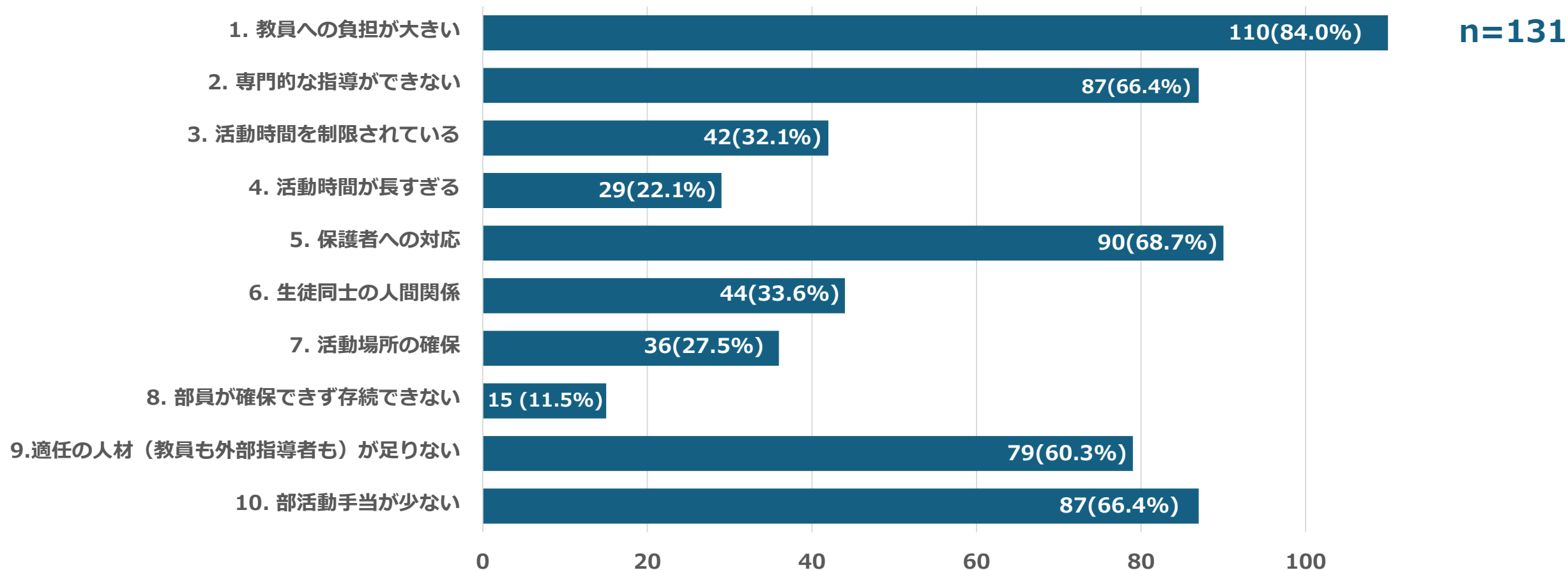
11

現在の学校教育における部活動に課題はあると思うか



n=134

現在の学校教育における部活動の課題は (複数回答可)



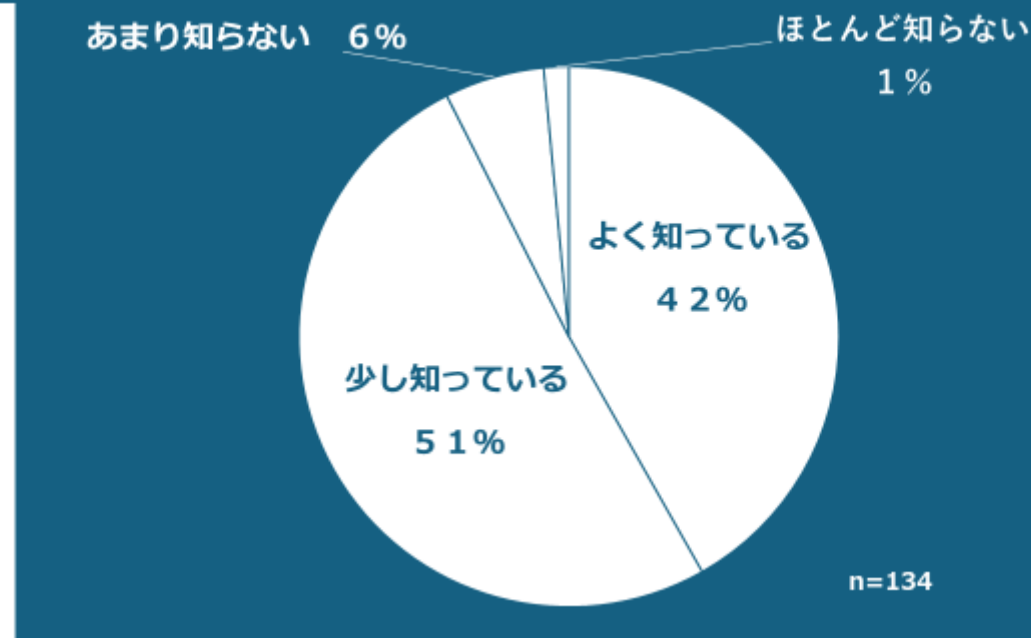
<自由記述>

- ✓ 活動時間の制限のルールが各地で異なること。
- ✓ 部活動の負担により、教員の仕事である授業準備、生徒指導等の時間が削られてしまっている。またその状況を現場の教員の力で改善していける段階にまだあると思えない。
- ✓ 部活動に力を入れている教員が少なく、それが子供に見えてしまっている。本当に頑張ろうとしている生徒がかわいそうである。また、教員に対してしっかりと手当を出すべきである。
- ✓ 顧問が家庭の事情を抱えていても代わりがないため家庭を犠牲にして部活動引率をしなければならない。普通の業務と同じようにやむを得ず休まなければならない場合の代員を確保してほしい。

部活動地域移行についての教職員の思い

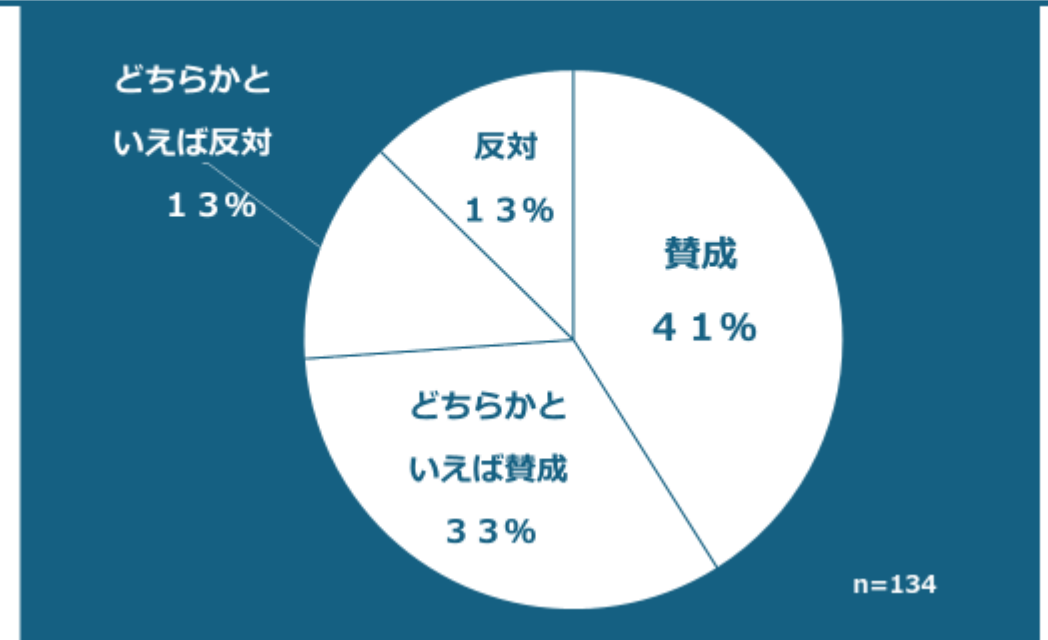
13

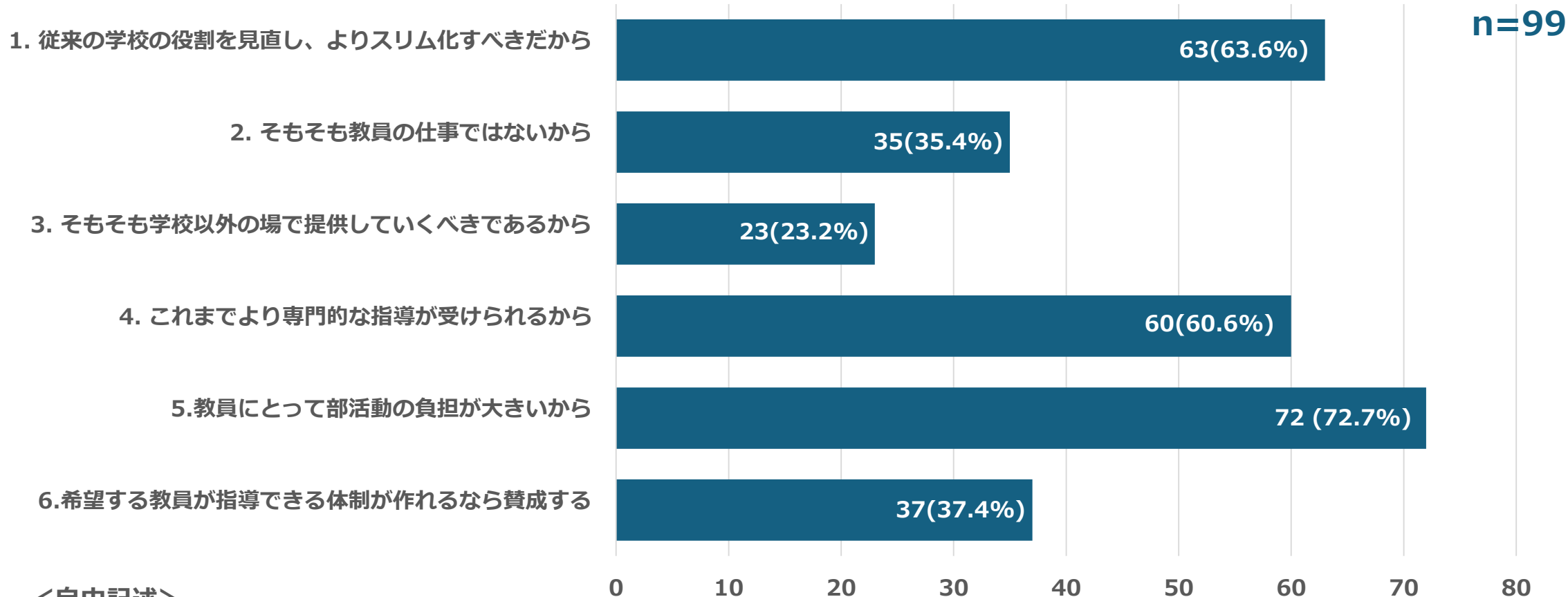
スポーツ庁において令和5年度から休日の部活動を段階的に地域へ移行していくこととしているが、このことを知っているか



14

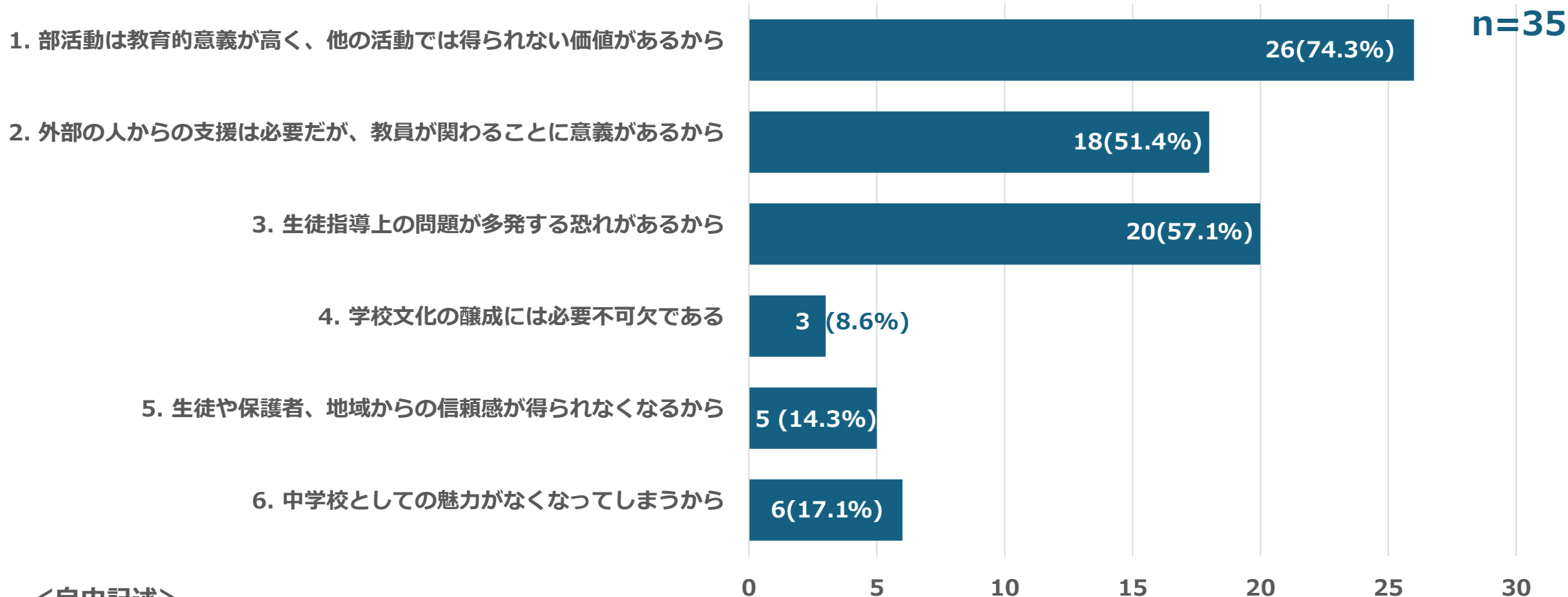
部活動を地域移行していくことについてどう思うか





<自由記述>

- ✓ 放課後の時間の過ごし方、子どもの居場所を地域に求めていくことは他の国では昔からされていることという認識なので。
- ✓ 中学生が恒常的にスポーツ・文化活動が気軽に楽しめたり、競技力向上を目指したり、様々な目的に対応できること。その、部活動に代わる団体の運営が、所属する参加者の金銭的負担に依らず、公的支援とともにわずかな負担で参加できること。現在の部活動の時間（15時～18時くらい）で活動できること。社会の制度として、成り立っていくことができる未来が見えるならば大いに賛成。私たちは、現状スポーツ・文化活動を提供する大変素晴らしい立場にあると考えている。上の1～6のように、教員の本来の仕事に注力できると考える。
- ✓ 土日に起きた生徒指導とか土日のスケジュールリングは全て、やってもらえれば賛成。



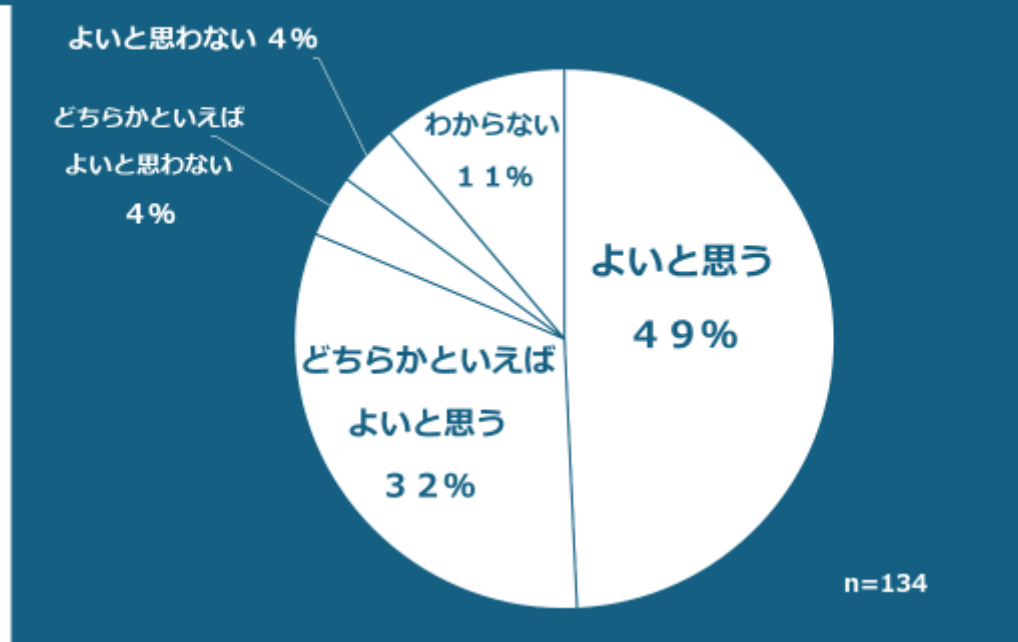
＜自由記述＞

- ✓ 地域でやるなら部活から移行ではなく、部活という制度を止めて各自で活動団体を探すべき。学校がかかわることではない。
- ✓ 移行するのであれば、学校はまったくかかわらない方がよい。中途半端にかかわると余計にめんどくさいと思うから。
- ✓ やりたくない教員のみが地域移行すればいいと思います。すべての部活でやる必要はないと思います。
- ✓ 外部に支払うお金を教員に充当するべきだと思う。また、生徒の申し送りや人間関係や学校生活の背景をよく知っている教員がやったほうが保護者としても安心だと思う。
- ✓ 地域のクラブチームの土壌がほとんど整備されていない状態で移行を進めていくのは、現在部活動に熱心に取り組んでいる生徒に対してあまりにも無責任である。

兼職・兼業についての教職員の思い

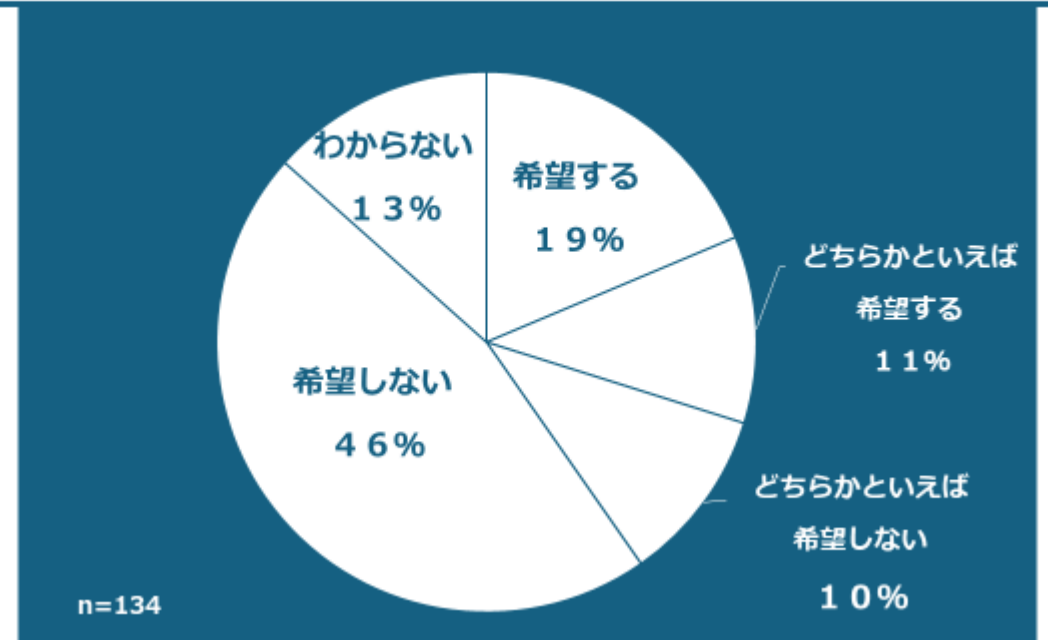
25

教員の基本的業務から部活動の指導をなくし、勤務時間外に希望する教員が指導員として兼職・兼業（報酬発生）し指導することについて



26

問25のような制度が整備された場合、兼職・兼業の申請をして、休日の部活動の指導にあたることを希望するか



令和5年度 休日の部活動地域移行実証事業 実際の活動の様子



【美笹中学校 男子卓球部】
21/23人登録 15回実施

練習試合を実施
(顧問が日程調整、外部指導者が引率及び指導)



【喜沢中学校 男子バスケットボール部】
30/31人登録 15回実施

2人の指導者で
種目別の指導



【新曽中学校 陸上競技部】
53/66名登録 15回実施



【新曽中学校 卓球部】
56/57名参加 19回実施

2人の指導者で
男女別の指導



令和5年度 取組の成果と見えてきた課題

成果

- 専門的な指導ができる指導者を派遣できる体制を構築することができた。それにより生徒や保護者から高い満足度が得られた。
- 休日の部活動に移行することで、顧問教員の負担軽減につながった。
- 平日の顧問と休日の指導者の連携のあり方についてモデルを持つことができた。
- 昨年度より規模を拡大したことで、地域移行に向けての仕組みづくりについて関係保護者に浸透させることができた。

課題と対応の見通し

- 指導者確保は民間事業者に依頼しているため、事業を拡大した場合の指導者不足の懸念がある。
 - ⇒関係団体（スポーツ協会、スポーツ少年団等）と連携し、地域指導者を発掘する。
- 実証期間が4か月程度に限られてしまう。実証が一部の部活動に限られている。
 - ⇒継続的な顧問のサポート体制と同時に、多様な地域クラブの受け皿の可能性を模索する（学校を超えた活動を含む）。
- 今後の費用負担について検討が必要である。特に受益者負担となった場合に保護者の理解が得られるかが課題である。
 - ⇒説明会で意義を伝えらるとともに見学会などの機会を設ける。
 - まずは少額の受益者負担から始め、保護者の理解を得ると共に持続可能な仕組みづくりを構築する。

令和6年度 部活動関連 各事業の実施スケジュール

部活動支援 (地域移行)

平日

休日

①

R6 NEW

3月 募集開始、各学校に意向確認
4月 任用開始

※学校の希望に応じて随時募集

- ◎顧問に代わる人材を配置
- 会計年度任用職員 ○単独指導可

部活動指導員
(単独指導可)

連携

部活動
顧問

サポート

部活動サポート
(顧問の支援)

部活動支援

③

平日

休日

5月 各学校に意向確認
6月 各学校から意向の提出
9月 指導開始(～3月)

- ◎指導経験のない顧問へのサポート
- 市教委が民間委託、支援員を派遣

平日

休日

②

部活動ボランティア
(顧問の支援)

サポート

- ◎指導経験のない顧問へのサポート
- 学校が推薦、市教委が委嘱
- 文化部も推薦可

4月 各学校に通知→各学校から申請
5月 指導開始 ※必要に応じ追加申請可

民間委託
(単独指導可)

R4・5・6
実証研究

④

休日

- ◎顧問に代わる人材を配置
- 市教委が民間と委託、指導者を派遣
- 単独指導可

6月 校長会議で説明
7月 各学校から意向の提出
10月 指導開始(～1月)

地域移行

検討

部活動の地域移行・地域連携に係る検討委員会

令和10年度を目安に、休日の運動部活動を可能な限り地域に移行する



令和6年度 休日の部活動地域移行実証事業 概要のまとめ

事業の概要

○実施期間

11月～1月

○実施回数

各部活動9回程度

○参加申込

期間中に、1回でも参加する場合は申し込む。

部活動の場合

○活動場所・用具

普段の部活動と同じ

○活動時間

土日のどちらか3時間以内
(市の部活動方針に基づく)

○大会がある場合の引率

顧問が引率

○平日の部活動

顧問が指導

地域クラブの場合

○指導者

民間指導者が複数で行う

○運営・管理・連絡

統括責任者が行う

○練習試合の引率

民間指導者が引率

○費用

保険料800円のみ徴収

令和6年度 戸田市における休日の部活動地域移行実証事業の流れ

- 4月～6月 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 採択決定・補正予算成立
- 5月 第2回戸田市立中学校における部活動の地域移行及び地域連携に係る検討委員会 開催
- 7月 各学校に希望調査を実施 →対象部活動の決定
(R4は1校2部活動、R5は3校4部活動、R6は4校6部活動)
- 8月～9月 業務委託民間事業者 公募・入札・契約
- 9月～10月 指導者募集・決定・研修
- 10月3日 保護者説明会 開催
(4校合同、オンライン開催)
- 10月 部活動顧問との打ち合わせ
- 11月 休日の部活動地域移行開始(～2月)
実施期間 ～令和7年1月31日
- 2月 第3回戸田市立中学校における部活動の地域移行及び地域連携に係る検討委員会 開催



部活動顧問と休日指導者の連携について

練習内容の報告・けが人等の報告



活動日・活動場所等の連絡

※ 休日部活動に関する生徒や保護者からの問い合わせ・相談は

- ① 統括責任者への連絡
- ② 専用窓口(電話/メール)
- ③ 専用アプリ に対応

令和6年度 休日の部活動地域移行実証事業 実際の活動の様子①

【美笹中学校 男子卓球部】
11/11人登録

○練習試合を実施
(顧問が日程調整、外部指導者が引率・指導)

【喜沢中学校 男子卓球部】
18/20人登録



【美笹中学校 剣道部】
10/10人登録

○有段者による指導
○合同練習や練習試合の実施

【喜沢中学校 剣道部】
14/14人登録



令和6年度 休日の部活動地域移行実証事業 実際の活動の様子②



【新曽中学校 陸上競技部】
59/71名登録

- 種目別の指導
- ・短距離/長距離
- ・跳躍や投擲も指導可



【戸田中学校 ボート部】
32/33人登録

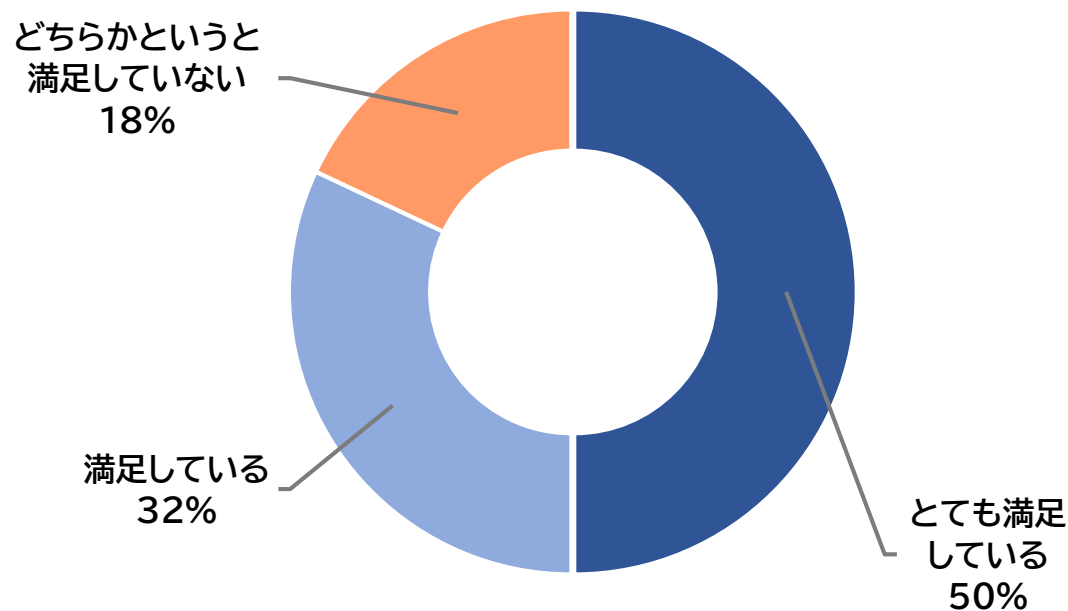
- 公認コーチによる指導
- ・保護者との顔合わせ
⇒練習見学会



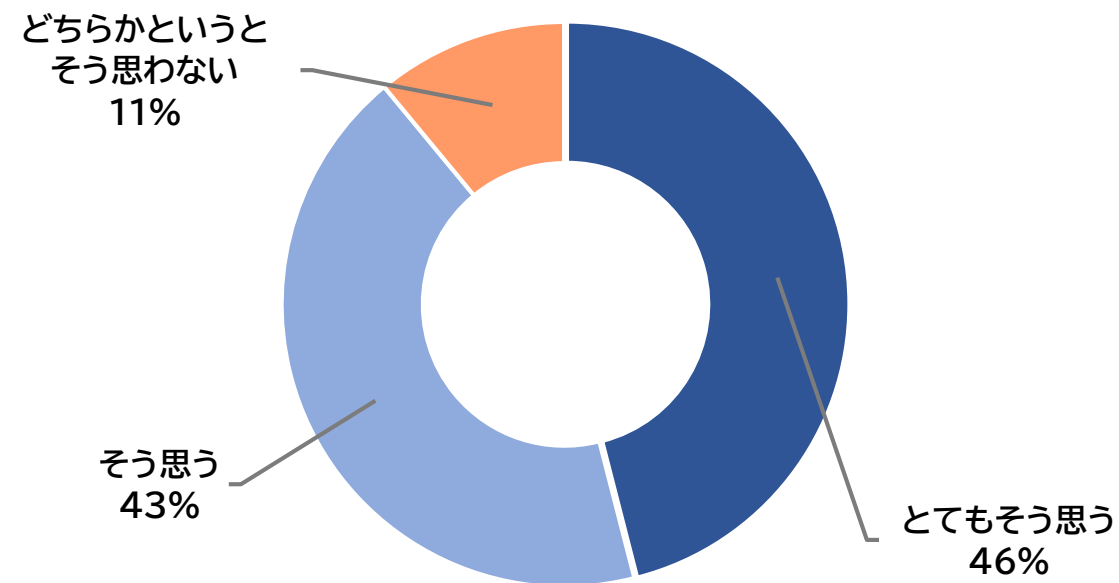
令和6年度 事後アンケートの結果から（生徒）

(n = 72)

休日の部活動に参加した満足度



学んだことを平日も意識して取り組んだ



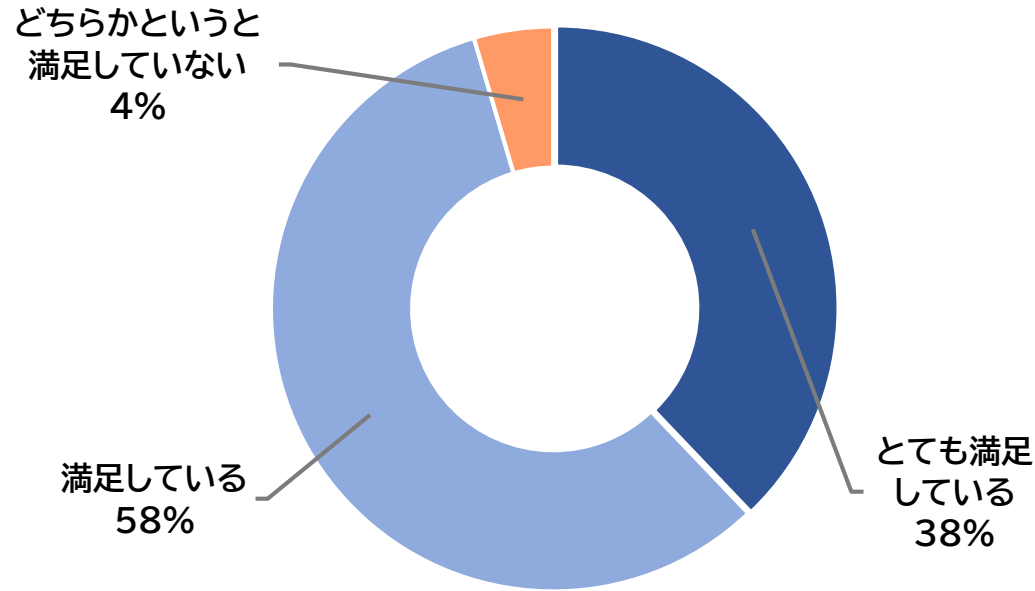
○専門的なことを直接聞いて教えてもらえたり、実際にやって見せてくれたりしてわかりやすいように教えてもらったからよい機会になった。
○とても楽しく部活動ができた。分からない事などを教えてくれる時は、優しく、細かいところまで説明してくれた。
○コーチのおかげで活動も楽しめたし、タイムも上がって上達を感じた。
●一部の期間だけでなく、通年いてほしい。

○速く走るコツなどを詳しく教えてくださり、休日以外もそのことを意識して意欲的に取り組むようになった。
○質問したときには、わかりやすく丁寧に教えてくださったおかげで、しっかりと理解できるようになり、自分の力になった。
○地域クラブで教わったことや今までやってきたことを無駄にしないようにたくさん活用していきたい。
●もっとレベルの高いアドバイスがもらえるとよかった。

令和6年度 事後アンケートの結果から（保護者）

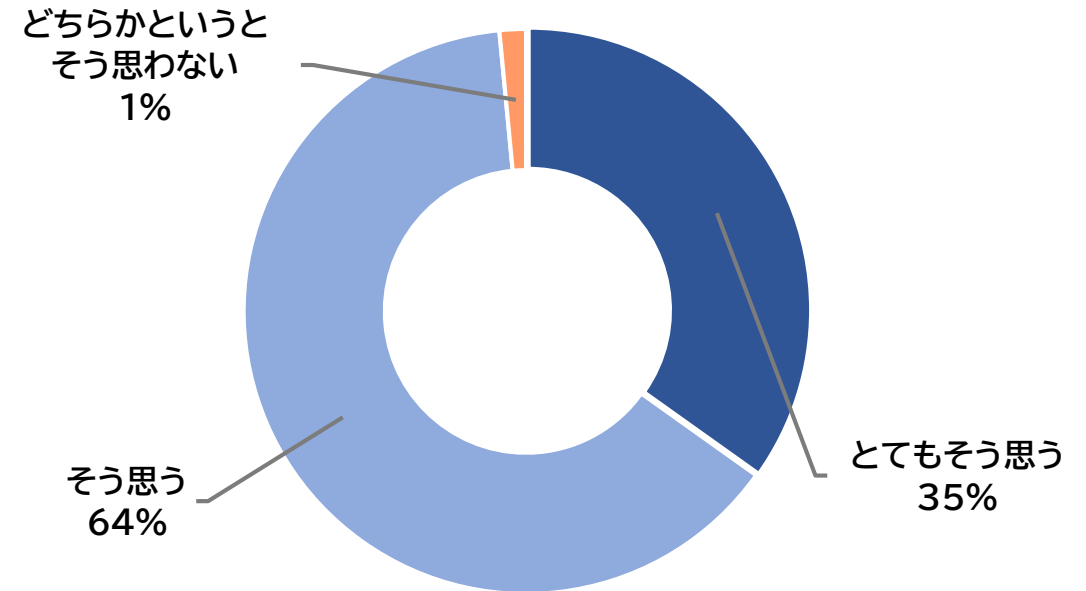
(n = 66)

休日の部活動に参加させた満足度



- 子供が楽しみにしていた。自主練を行うなど、能動的に取り組むようになったと思う。
- 大変熱心に指導していただいて、いい刺激になったと感じている。
- 「経験者だからこそできる指導を受けることができた」と聞いているので、高く評価している。
- 楽しかった、指導内容が良かった、また指導を受けたいと子どもが話していた。
- 期間が短いため、一年を通してやってもらいたい。

外部指導者に安心して指導を任せられた

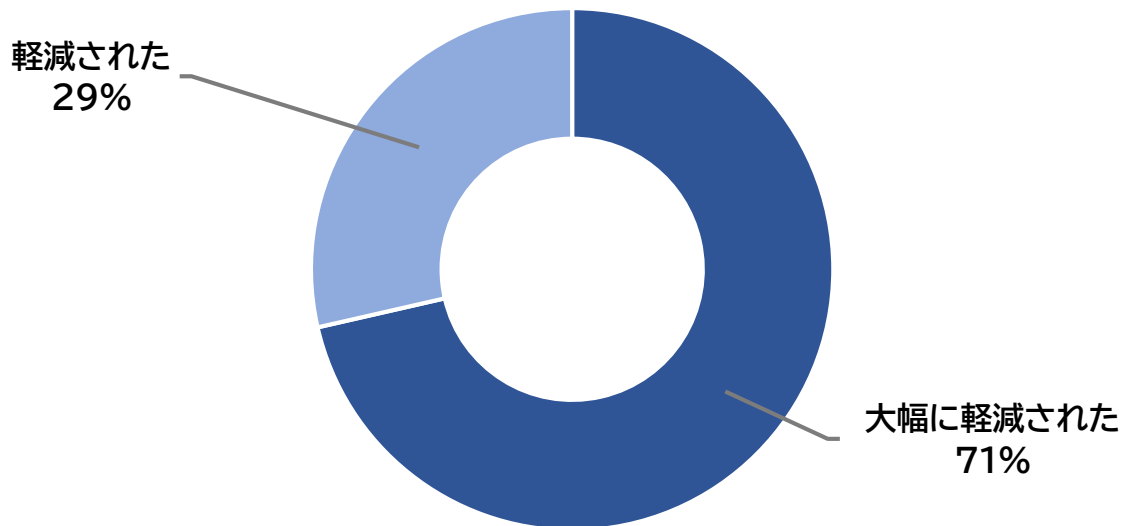


- 最初に指導者との顔合わせやアプリでのプロフィールの紹介があり、どんな方に指導いただけるかが確認できた。
- 一度、学校での練習を見学したが、基本的なことから丁寧に教えてくださっていたことが印象的だった。
- 出欠連絡や一ヶ月の予定確認もアプリででき、一度部活を忘れていた際も電話連絡をして対応してくださった。
- 自転車での移動時に、指導者も一緒に自転車で併走していただけて安心できた。
- 子供の話だけでは様子が分からないため、活動報告があるとよい。**21**

令和6年度 事後アンケートの結果から（顧問）

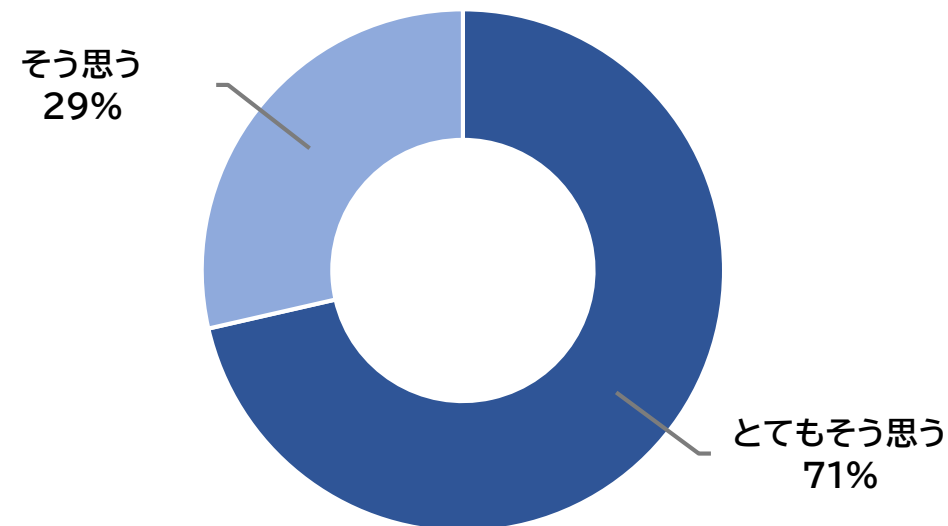
(n = 7)

休日の部活動業務がなくなり、
負担は軽減されたか



- 土曜も家族の時間として使えることができるようになった。
- 休日2日間が自由に使えるようになった。教員になって初めてこんなに自分の時間が確保でき、とても感謝している。
- 休日を自分や家庭の時間に使うことができたから。
- 休日の練習は無くなったといえ、大会の時は引率必須だったので、大幅に軽減されたとはいえない部分もある。
- 連絡網ツールに登録していなかった保護者について、学校側から連絡が必要になることがあった。

来年度も地域部活動推進事業を
実施したいか



- 普段の部活動で私たちができないこと、教えられないことを講師のに教えていただくことができた。
- 平日の練習にも、休日に教えていただいたメニューを取り入れたいと生徒から申し出があり、意欲の高まりを感じた。
- 平日は先生、休日はコーチとハイブリッドのやり方もありだなと感じた。
- メールで翌月の予定をやりとりしたり、練習でなにかあったときに連絡をくださったりと情報共有がしやすかった。
- 子供たちが基礎・基本を身に付ける早い段階から開始できたらもっとよかった。